

# 明日に向かって

報告リポート No.61

## ごあいさつ

新しい兎年（跳ねる）の幕開け、しかし振り返れば長引くコロナ禍、大雨による甚大な被害、物価上昇、歯止めがかからない少子高齢化社会、尚厳しい時代に入ってきていると思います。

その様な中であっても、喜びも悲しみも分けあって支え合い、共に生きる社会の実現に向けて、皆様方と共に、全力で取り組んで行きます。

今回の報告は、一般質問の機会を頂きましたので、その内容をご紹介します。

いつも乍らのつたない報告ではございますが、ご高覧頂き、引き続き貴重な声を届けて下さい。



黄金の海、美しい海岸線 日本海

## 「すべては地域住民の命と暮らしを守る為に」

昨年を振り返れば8月3日から9日にかけての、記録的な大雨被害、河川砂防、アクセスをはじめ、農林水産までが、甚大な被害を受けました。町や県や木村代議士の働きにより激甚災害の指定を受ける事が出来ました。12月、県の資料によれば県全体の被害額は383億円余り、うち「鯹ヶ沢町」、県及び町が管理する被害額59億円余り、「深浦町」、県及び町が管理する被害額92億円余りだという事です。

膨大な被害額、国の査定も終わり、復旧復興はこれからです。何よりもスピード感を持って木村代議士と共に、鯹ヶ沢町、深浦町共に連携を密にして地域住民のご協力を頂きながら、全力で頑張っています。



深浦町、鯹ヶ沢町の最重要課題、それは人口減少対策です。その取り組みには産業雇用、健康福祉、人材育成そして、昨年大雨被害の早期復旧等、一緒に頑張ろうと、吉田町長。

青森県議会議員

# 工藤兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038-2712 青森県西津軽郡鯹ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59-2  
TEL 0173-72-1224 ・ FAX 0173-72-1233

討 議 資 料

第312回定例会に当たり登壇の機会を頂きました。自由民主党の工藤兼光でございます。皆さんに感謝し通告の順に従い質問に入りたいと思います。



**最初の質問は、8月3日からの大雨災害への対応についてであります。**

まずは、8月の大雨により被災されたすべての方々に、改めてお見舞いをもうしあげますとともに、一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

また、知事をはじめ、県執行部の方々や、関係機関の皆様方による、復旧に向けた御尽力に対しまして、この場をお借りして感謝申し上げます。

**まずは、道路・河川の復旧と今後の対策についてお伺いします。**

西北管内でも、日本海沿いを鱈ヶ沢町から深浦町を經由して秋田県八峰町に抜ける国道101号の複数箇所において、冠水、土砂流出等により通行に支障が生じました。

また、県管理河川の施設被害も複数箇所が発生しました。日常生活にも大きな支障が生じるなど、地域住民や関係者の方々の不安や不便は想像を絶するものがあっただろうと認識しております。

今回の大雨災害については、これから復旧に向けた取組が本格化することと思いますが、一刻も早い復旧が待ち望まれているところであります。

**そこで、まずは、西津軽管内における被災した公共土木施設の本復旧にむけた取組状況について、お伺いいたします。**

**答弁**① 今年8月3日からの大雨では、県内全域で甚大な被害となり、中でも鱈ヶ沢町と深浦町における被害が顕著であり、両町における県及び町が管理する公共土木施設の被害は、199箇所、約113億円と、被害額ベースで県全体の約6割近くを占めるものとなっています。

② 両町で被災した公共土木施設については、国による災害査定が先月から本日まで実施されているところであり、その結果、災害復旧事業費が決定することとなります。

③ 災害査定後は、来年1月より緊急性が高い箇所から順次復旧工事を発注し、中村川の下流・市街部の護岸については、来年の出水期までの本復旧完了を目指すなど、早期復旧に努めて参ります。

④ なお、国道101号の土砂流出箇所や中村川の護岸損壊箇所等、早急に対策が必要であった箇所については、災害査定を待たずに応急工事を実施し、既に完了しています。

⑤ また、町管理の公共土木施設の復旧についても、随時、技術的な助言を行うなど、引き続き、早期復旧に向け、両町と緊密に連携しながら、積極的かつ強力に支援して参ります。



次に中村川についてです。

中村川では、明海橋や舞戸橋の架替が終わったことから拡幅工事が一日も早く完成し、安全に暮らせることを住民の方々は強く望んでおりましたところに8月9日からの大雨による災害が起きました。

三村知事が現地を視察した際には、平田町長が「中村川についても、しっかり対策を講じて欲しい」と訴えたところでした。

壊れた部分の復旧だけに終わってしまうのではないかと、同様の大雨が降ったら、また、被害にあってしまうのではないかと地域住民はとても不安になっていると思います。

そこで、中村川の再度災害防止対策について、どのように取り組んでいくのか、伺いたします。

甚大な被害を受けた舞戸町と中村川



**答弁**① 本年8月の大雨では、県内全域で大きな被害が発生しましたが、なかでも鱈ヶ沢町では、中村川が氾濫し、300戸を超える床上浸水被害が生じるなど特に甚大な被害が生じました。

② 発災後、私も被災現場に赴き、その被害の大きさに胸を痛めると同時に、再びこのような被害を生じさせることがあってはならないとの思いから、流域内のあらゆる関係者が協働して取り組む流域治水の必要性を改めて強く認識したところでした。

③ そのため、県では、中村川における流域治水の取組の推進に向け、庁内関係部局、鱈ヶ沢町、国の関係者からなる「中村川流域治水緊急対策推進会議」を設置し、先月25日に開催された第1回の会議では、流域治水による取組の必要性について関係者間で認識を共有したところでした。

④ 今後、この会議における議論を進め、来年3月までに関係者が取り組む各種対策をとりまとめるとともに、河川管理者である県としても、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策として、これまで進

めてきた河川改修事業のより一層の加速化を図ることとしています。

⑤ 私としては、流域治水の考えのもと、関係者と連携して、中村川流域における再度災害の防止に強力に取り組んでいく決意です。

内水氾濫、水田が湖のようです。  
舞戸町から中下方面へ。8月9日 12時頃撮影



次に市町村が管理する道路についてです。

9月の建設委員会で、被害の大きかった鱒ヶ沢町、深浦町が管理する道路災害への県の支援について質問させていただきました。

その後、去る10月1日に、両町長から、町道山子線・開晴橋および町道長慶平1号線の災害復旧への支援について要望したところ、知事からは、県が代行して復旧工事を行うとの回答をいただいたと聞いております。



町道、開晴橋（鱒ヶ沢町）  
8月3日から9日にかけての大雨で被害をうけ、渡れない橋には雪が積もる。早い復興を地域住民は強く望んでいます。

そこで、鱒ヶ沢町と深浦町から要請のあった町道山子線・開晴橋および町道長慶平1号線の災害復旧に関する代行工事について、県の対応と今後の予定をお伺いたします。

**答弁**① 本年8月の大雨により、西海岸地域では道路や鉄道等に甚大な被害が発生し、観光面にも大きな影響がみられたことから、県では、9月上旬の十二湖青池への通行規制解除後に、同地域への誘客を図るため、県内のテレビCMや新聞広告により、周辺の観光資源を情報発信しました。

② このような状況を踏まえて、10月18日、両町長から知事に対して、当該町道の災害復旧への全面的な支援の要望があり、知事からは「このような状況を一刻でも早く解消するため、県が代行して復旧工事を行う」旨回答し、道路法第17条第8項に基づいて県が工事を行うこととしました。

③ 加えて県では、両町に対して、現地調査や復旧工法の提案など、災害査定に対する支援を行ってきたところであり、現在、査定結果を踏まえた設計を進めているところです。

④ 復旧工事については、設計完了後、早期に工事着手できるように鱒ヶ沢町及び深浦町と協力しながら準備を進め、一日も早い復旧を目指して取り組んで参ります。



冬の長慶平1号線（深浦町）  
小さい谷間から、さわやかなせせらぎの音がきこえる。  
8月3日から9日にかけての大雨、その濁流のツメ跡がうそのようだ。

#### 冬の長慶平1号線

応急復旧が完了して令和4年11月21日に通行開始し、来年4月ごろには再び通行止めとし、本復旧工事に着工する。そして冬期間にはまた通行開始、この手順を繰り返し復旧工事完了までとしています。

1日でも早く本復旧工事が完了するよう頑張っていきます。

次に、在来線の復旧についてであります。

8月3日からの大規模災害では、県内の多くの区間で運休が発生するとともに、鉄道施設に大きな被害を及ぼしました。

特に五能線は、地域住民の暮らしの足としてだけでなく、日本海の絶景を楽しむローカル線として全国的に観光客に人気の高い路線であり、地域経済を再起動するために必要不可欠なものですが大規模災害によって、コロナ禍からの反転攻勢が期待された今年の夏から秋の観光シーズンに、運休となったことは残念でなりません。



先月、岩館・深浦間については、12月9日頃の運転再開との発表がありました。深浦・鱒ヶ沢間については、近日中に運転再開の時期を示すことができる見込みとのことで、詳しい再開時期は示されませんでした。

そこで、JR五能線の現状と県の対応についてお伺いします。

**答弁**① 在来線の復旧について、県ではこれまで、県議会や青森県鉄道整備促進期成会との合同要望書により、国やJR東日本に対して早期復旧を働きかけるとともに、復旧状況の情報収集に努めてきたところです。

② 運行見合わせとなっている五能線の区間のうち、深浦・岩館間については、12月9日頃から運転再開を予定していることが公表されておりますが、深浦・鱒ヶ沢間については、JR東日本から、特に大きな被害が出た中村川橋りょうの橋脚の調査、復旧方法の検討、試験等を丁寧に進めていく必要があります。運転再開までに時間を要しているものと伺っています。

③ 現在、深浦・鱒ヶ沢間の復旧工事は順調に進捗し、運行再開に向けた確認や調整といった段階となっていることから、近日中にも運行再開時期が示される予定と伺っており、JR東日本をはじめとする、

五能線の復旧に携わった関係者の御尽力に深く感謝しているところです。

④ 県としては、今回の長期間に及んだ運行見合わせにより、JR五能線が県民の日常生活や観光客の広域的な移動に不可欠な路線であることを再認識したことから、今後も維持・存続や輸送サービスの向上を働きかけていくとともに、JR東日本や市町村と連携した利用促進にもしっかり取り組んでいくこととしています。



## 被災市町村の復興・活性化に向けた取組への支援について

今回の大雨被害では、住民生活のみならず、商工業や観光業、農林水産業などの経済活動へも深刻な影響を及ぼしています。

特に、津軽地域を中心に多数の建物の損壊や浸水被害のほか、りんごや水稻等の冠水、農業用施設や水産養殖施設の損壊など甚大な被害が確認されました。とりわけ、私の地元である鱒ヶ沢町や深浦町においては、町内のいたる箇所で道路の冠水や土砂の流入、商業施設や住宅への浸水、農地・農業用施設の被害など、過去に経験したことのないほどの被害が確認され、「被災者生活再建支援法」が適用されたところ です。

被災者の生活再建と被災地域の活性化を図るためには、国・県・市町村が連携し、被災地域のニーズに応じたきめ細やかな支援が大変重要であると考えます。

そこで、被災地域の早期復興や活性化のためには、市町村が地域の実情を踏まえた対策を積極的に講じることができるようにしていくべきと考えますが、県では市町村支援について、どのように対応していくのかお伺いします。



**答弁**① 本年8月3日からの記録的な大雨により、県内の広い範囲において甚大な被害が発生したところですが、被災市町村においては、国・県の復旧支援策を活用しつつも、地域経済の早期回復に向け、よりきめ細やかな独自支援策を実施しており、県に対し、これらに要する経費への支援を求める声が市長会、町村会などから上がっているところです。

② こうした要望を受け、県としては、被災者生活再建支援法の適用を受けた鱒ヶ沢町、深浦町及び外ヶ浜町の3町に加え、県内各市町村がその被害状況に応じた対策を講じていることから、「元気な地域づくり支援事業費補助」を増額し、臨時的・包括的に市町村を支援することとして、本定例会において補正予算案を御審議いただいているところです。

③ 支援内容としては、市町村が独自に実施する被災事業者の事業継続や商店街のにぎわい創出、地域コミュニティの再生や観光振興などを対象とし、補助率は原則として3分の2、対象事業限度額は、被災者生活再建支援法の適用を受けた3町が1町につき1億5千万円、その他被災市町村が、1事業につき1千5百万円としています。



次に、西海岸地域の観光振興についてであります。

8月の大雨は、観光面でも大きな影響を与えております。県内の宿泊施設では、浸水により営業に支障を来す施設もあったほか、道路や鉄道が被害を受けたことで、観光客の移動の足にも影響が出ました。

また、宿泊のキャンセルもあったと聞いており、夏休みの時期とも重なる繁忙期でもあったことから、事業者の大きな痛手となったのではないのでしょうか。

そして、特に、鱒ヶ沢町、深浦町といった西海岸地域では、JR五能線の人気列車「リゾートしらかみ」が一部区間で運休となったほか、十二湖へ向かう道路も一時通行止めとなるなど、この地域の観光を支える主要な要素が大雨の影響を受けました。

コロナ禍でダメージを受けた観光産業の回復に向けて、国や県の様々な取組により、動き出していく中で、この大雨被害の影響はその回復に水を差すものであり、特に被災した西海岸地域については、誘客に向けた取組が必要であると考えます。

そこで、大雨で被災した西海岸地域への誘客に向けた取組についてお伺いします。



**答弁**① 本年8月の大雨により、西海岸地域では道路や鉄道等に甚大な被害が発生し、観光面にも大きな影響がみられたことから、県では、9月上旬の十二湖青池への通行規制解除後に、同地域への誘客を図るため、県内のテレビCMや新聞広告により、周辺の観光資源を情報発信しました。

② また、先月9日には、東京都内で首都圏の旅行会社や交通事業者等を対象とした青森観光セミナーを開催し、西海岸地域の観光復旧に向けた機運醸成を図るとともに、多くの方に訪れていただけるよう旅行商品の造成促進を働きかけました。

③ 現在も、観光客に人気の高いJR五能線「リゾートしらかみ」の一部区間の運休が続くなど、観光面での影響が残る状況にありますが、県としては、今後も交通網の復旧状況等を踏まえた西海岸地域への誘客対策を着実に進めていきます。

### 「五能線復旧、これまでの議会の動き」

昨年8月3日から9日にかけての大雨により、五能線被害約71箇所だと言う。特に中村川の橋梁に大きな被害を受け「五能線存続が危ぶまれる」等の声もあがる程でした。

そこで県議会では、国土交通省の担当者、JR東日本の幹部を招いて「新幹線、鉄道問題対策特別委員会」が、阿部廣悦委員長の下で聞かれ、委員からは在来線の存続を求める意見や、質問が相次ぎました。これを踏まえ、各関係機関に働き続けてきました。





## 令和4年11月第312回定例会 自由民主党 工藤(兼)議員 再質問

知事はじめ、丁寧な御答弁をいただき、ありがとうございます。  
一点だけ再質問をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほどの知事のご答弁では、今回の被害を与えた洪水に対する中村川の再度災害防止対策として、鉄道橋を含む1.4キロメートルの区間までの河川改修を加速化させるとともに、流域の関係者間で内水対策などを推進していく流域治水の対策会議を11月25日に立ち上げるなど、既に様々な対策が始まっているとのことで鱒ヶ沢町に寄り添い迅速に対応していただいていることに大変ありがたい気持ちです。

しかし、昨今の気候変動などを考えますと、今回の河川改修が完了したとしても再び大きな水害に見舞われてしまうことがあるのではないかと不安を感じているところです。

そこで1点お伺いいたしますが、

**現在進めている中村川の治水対策に続く、  
将来計画を検討していく予定があるのか伺います。**



「河川激甚災害対策特別緊急事業」が採択され、これに合わせて「緊急治水対策プロジェクト」を策定し、対策に着手します。

全体事業費、50億円。実施期間、令和4年度から令和8年度まで。

**答弁**① 現在、中村川では河川整備計画に基づき毎秒450立方メートルの洪水に対応するための河川改修を進めており、今回の災害を踏まえ、その加速化を図ります。

② 今年8月の大雨による洪水の規模は毎秒600立方メートルであったと推定しており、現在実施中の整備を完了しても今回と同規模の洪水を安全に流下させることができないこととなります。

③ 一方で、中村川の長期的な整備方針を定めた河川整備基本方針では、対応すべき洪水の最大流量を毎秒700立方メートルとしており、現在の河川改修で対象となる毎秒450立方メートルを超える毎秒250立方メートルについては洪水調節施設により対応することとしています。

④ 今回と同規模の洪水に対して安全な川とするため、県では、具体的な洪水調整施設を位置付けた新たな河川整備計画への改定に速やかに着手して参ります。

## 私の要望

スピード感を持った河川改修と並行して中村川の将来形についての検討もしていただくということで、ありがとうございます。

中村川については、再び同じような被害が起こらないよう、鱒ヶ沢町のためには、どのような将来計画が良いのか、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

また、道路災害についてですが、道路は地域の産業・生活を支える重要な社会基盤であります。

鱒ヶ沢町、深浦町には、県管理道路の災害箇所もありますが是非、町管理道路についても早期復旧していただき、住民が一日でも早く道路を安全・安心に利用できるようお願い申し上げます。

これから年の瀬を迎えます。被害に遭われた方々が安心して年を越せるよう、引き続き被災した地域の早期復旧と復興に御尽力を賜りますようお願いして私の質問を終わります。